

平成 30 年 2 月 8 日  
株式会社リサーチ・アンド・ディベロプメント

## 75 才でようやく自他共に“シニア”。 “シニア”と思う年齢も 2 才上昇

－首都圏 3000 人に「シニアだと思う年齢」について調査－

株式会社リサーチ・アンド・ディベロプメント(所在地:東京都新宿区、代表取締役:松田 武久)は、首都圏在住の 18～79 歳の男女 3,000 人を対象に実施した自主調査を用い、何才から「シニア」だと思うか?について分析を行いました。

### 調査結果

- 「シニアだと思う年齢」は、5 年間で約 2 才上昇し、64.2 才に。(図 1)  
20～50 代までの現役世代にとって、シニアだと思う年齢は 5 年前まで 60 才だったが、現代では 63 才に。70 才以上では、シニアの認識は「70 才」を超えた。
- 現役世代で「60 才＝シニア」像が崩れる。  
全ての年代でシニアだという共通認識が持てるのは 75 才以上。(図 2)  
5 年前と異なり、70 才では「自他共にシニア」と言えず、75 才が「シニア」のステージに。

### R&D 生活者インサイト

#### ◇現役世代でも「60 才で現役卒業ではない」認識が定着

「シニア」だと思う年齢のイメージは、2012 年 62.4 才から 2017 年 64.2 才へと 1.8 才上昇しました。「シニア」という言葉は「高齢者」という言葉よりは若干若めをイメージしそうだという点はあるにしても、5 年前の現役世代にとっては、「前期高齢者＝65 才～」という定義よりも「60 才＝定年で引退するシニア」の印象の方が強かったようです。

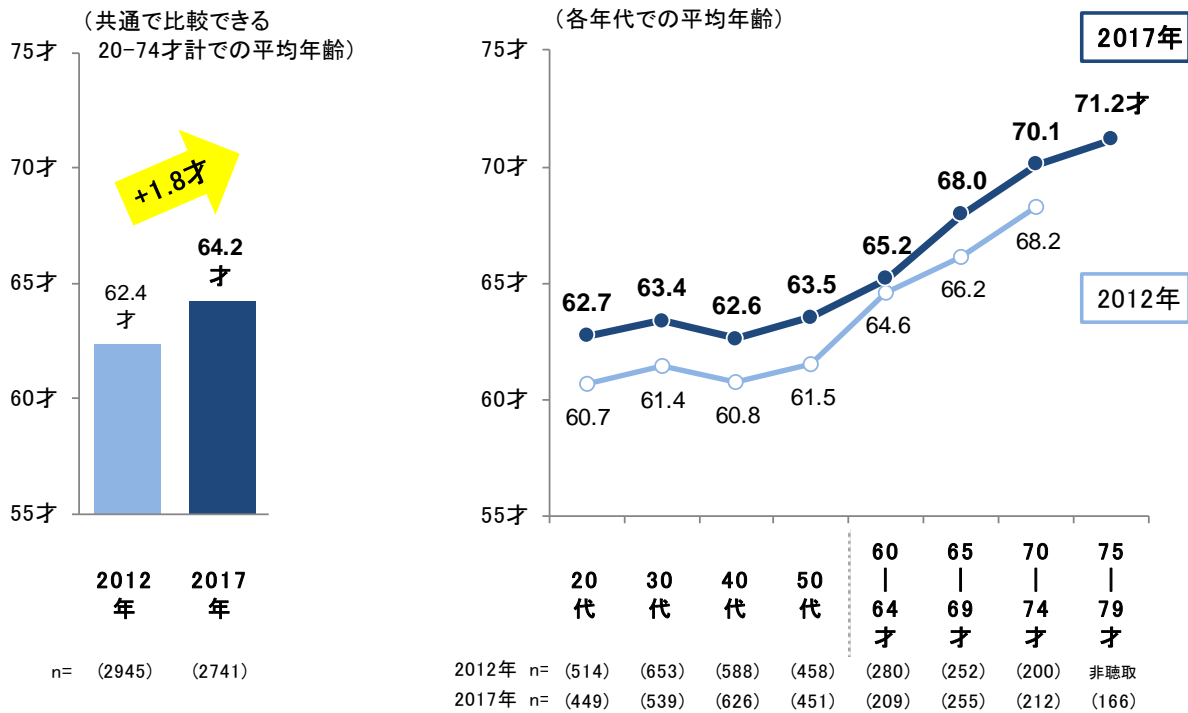
しかし、今のシニアは昔よりも若々しいという報道もよく見かけますし、企業の雇用延長によって 60 才を超えても働き続ける姿を間近で見えるようになった結果、現役世代が「シニア」とイメージする年代も 63 才へと上がりました。さらにその先、シニアになってからも現役続行する姿が根付きつつあります。

#### ◇「75 才以上高齢者」の定義引き上げに違和感無し

2017 年 1 月に日本老年学会から、高齢者の定義を 75 歳以上に引き上げる提案がされました。「高齢者」と「シニア」という表現の違いはありますが、当事者も納得する定義改変案と言えそうです。

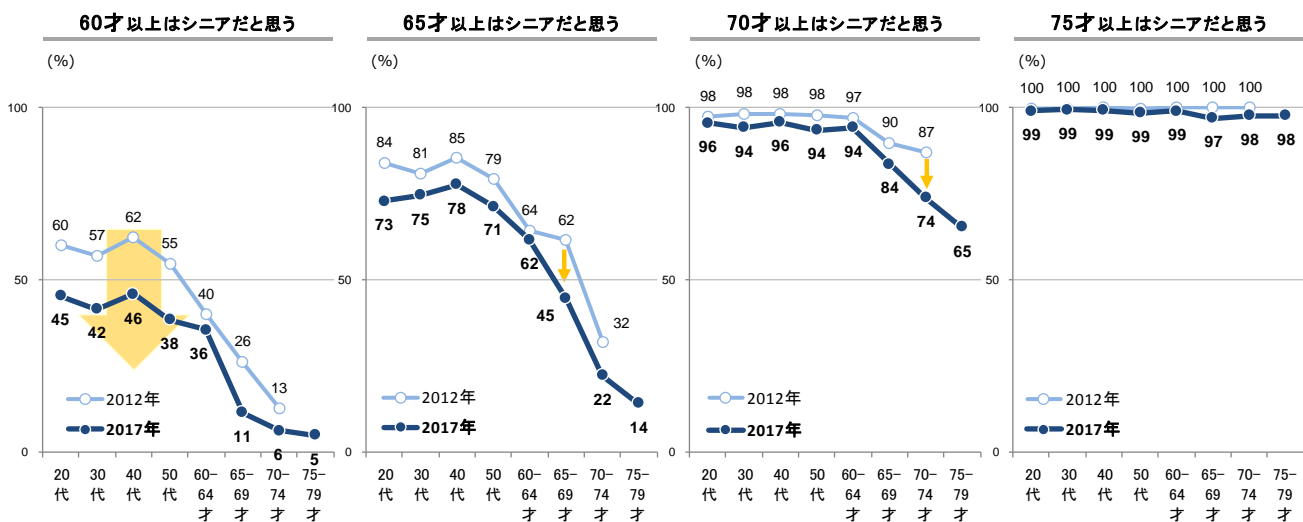
調査結果 グラフ(一部抜粋)

(図1) 何才以上を「シニア」だと思うか／各年代別平均年齢



※株R&D「CORE2013(2012.10調査 18-74才対象)」「CORE2018(2017.10調査 18-79才対象)」より

(図2) 何才以上を「シニア」だと思うか／各年代別



※株R&D「CORE2013(2012.10調査 18-74才対象)」「CORE2018(2017.10調査 18-79才対象)」より

調査結果の詳細は、**無料ダウンロードレポート『変わる「理想のセカンドライフ」～”現役延長シニア”がもたらすもの』**をご覧ください。

本リリースで取り上げた結果以外に、以下の内容を掲載しております。ぜひこちらもご覧ください。

(弊社ホームページよりダウンロードいただけます)

- 何才以上を「シニア」だと思うか／同世代同士 5 年前と今の回答比較(5 才刻みで比較)
- リタイア後の理想のセカンドライフ／60～70 代男女

今回、発表致しましたデータを含む R&D CORE(生活者総合ライフスタイル調査システム)2018 単年の集計表を 100,000 円(税別)にて販売しております。(18～79 才まで性年代別等基本分析軸での集計表アウトプット)

R&D CORE(生活者総合ライフスタイル調査システム)を利用した調査・分析:課題の洗い出しから分析アウトプットまで、R&D スタッフがお手伝いします。

詳細は弊社ホームページ <http://www.rad.co.jp/> をご覧ください。

#### ■CORE 2018 調査概要■

調査名： CORE2018 マスター調査  
 調査地域： 首都圏 40km圏(調査地点 200 地点)  
 調査対象： 18～79 歳男女個人  
 サンプル数： 有効回収 3000 サンプル (人口構成比に合わせて、性×年代別を割付)  
 サンプルング手法： 住宅地図を用いたエリアサンプルングで抽出  
 調査手法： 訪問・郵送併用の自記入式留置調査  
 調査実施時期： 2017 年 10 月(毎年1回 10 月実施)

※『CORE』は、株式会社リサーチ・アンド・ディベロプメントの登録商標です。  
 ※1982 年から約 30 年、生活者理解のために毎年実施している自主調査です。

#### ■会社概要■

会社名： 株式会社リサーチ・アンド・ディベロプメント  
 所在地： 〒163-1424 東京都新宿区西新宿 3-20-2  
 代表者： 代表取締役社長 松田 武久  
 資本金： 30,000 千円  
 設立： 1968 年 1 月 17 日  
 URL： <https://www.rad.co.jp>  
 事業内容： マーケティング・リサーチの企画設計、実施及びコンサルテーション  
 経営・マーケティング活動の評価及びコンサルテーション

《引用・転載時のクレジット表記のお願い》

本リリースの引用・転載時には、必ず当社クレジットを明記いただけますようお願い申し上げます。

<例>「(株)リサーチ・アンド・ディベロプメントが実施した調査によると・・・」

#### ■お問い合わせ先■

- 本分析担当：
  - 株式会社リサーチ・アンド・ディベロプメント マーケティング・ソリューション部 (高田)
- 本資料に関するお問い合わせ：
  - 株式会社リサーチ・アンド・ディベロプメント セールスプランニング部 (小林)
  - TEL：03-6859-2281 e-mail：radnews@rad.co.jp